

豊富な行政経験を活かし新冠町の発展のために 尽力された中村義弘前副町長が退任



5月10日職員に見送られる中村前副町長

前副町長 中村 義弘
これまで副町長として町の発展にご尽力いただきました。中村前副町長は、5月10日、任期満了を迎え退任することとなりました。

中村前副町長は、平成29年3月に新冠町役場退職後、同年5月に新冠町副町長に就任、1期4年間にわたり鳴海町長の補佐役・相談役として重責を担い、町職員時代に培った豊富な知識と経験を基に、その手腕を遺憾なく発揮されてこられました。

中村前副町長、長い間お疲れさまでした。

山本政嗣副町長・奥村尚久教育長が就任

副町長 山本 政嗣（前教育長）
私は、4年前この場所での不安と緊張感の中で、教育行政の長としての立場を仰せつかったわけですが、顧みずと非常に短かつたという印象で、ただただ走り抜けてきたという実感でございます。

就任当初はさまざまな教育課題を感じ取ったわけであり、子ども、少子高齢化の中における児童数の減少、更には義務教育環境の施設の老朽化、これに対する将来構想の必要性、更には教育現場と教育行政との信頼関係の希薄さ、こういったものを感じ取ったわけであり、この2点に関しましては、この在任期間中に取り組みが叶ったのではないかと考えているところでございます。

今後におきまして、新たな重責を担わせていただくわけですが、私自身行政運営における経験、そして知見において不足することが多いということと自覚した上で町民の皆さま、そして議員の皆さま、何よりも町職員全体の力をお借りしながら、第2期鳴海町政が掲げる「思いやりと笑顔にあふれた新冠」の実現に向け、自らの特徴を最大限に発揮しながら誠心誠意、職務に邁進したいと考えているところでございます。

今後とも、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。教育長の退任とそして副町長就任のごあいさつとさせていただきます。

教育長 奥村 尚久（前指導主事）
これから新冠町の教育行政を担うこととなりましたが、教育はこれからの将来を担う子どもたちの基盤であり、どんなに時代が変わろうとも、心の中にふるさと新冠を抱き、自分の良き、可能性を信じ、さまざまな人々と協働し、変化の激しい時代を乗り越えていく力を育むことが大きな使命だと考えております。「町民憲章」、「Reの精神」をいつも原点回帰として教育行政の実践に務めてまいります。

現在、終息の見えないコロナ禍にあります。教育の質を更に高め、教育課題の解決に向けて取り組んでまいります。

山本教育長の下で学ばせていただきましたことを基に、未来を担う子どもたちがたくましく生き抜く力や町民の方々が心豊かに、生きがいを感じられる生涯学習の推進、活力ある地域社会の形成のために誠心誠意、職務に邁進する所存でございます。

今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



5月7日第2回臨時議会であいさつをする山本副町長（左）・奥村教育長（右）

が制定され、今を生きるアイヌの人々が誇りを持って地域で暮らし、アイヌ文化を次世代へ継承して行くとともに、多様な文化と共生・共存しながらアイヌ文化を発信し、アイヌ関連の交流活動を活性化させ、魅力ある地域社会を築くことを目的に、「アイヌ政策推進交付金」が創設され、アイヌ文化の継承と伝承活動のための、さまざまな事業展開が可能となっております。

当町におきましても、アイヌ協会の皆さまと協議を重ねた結果、シヤクシヤイン伝説が残り、アイヌの無縁者847体が眠る納骨堂があり、今なお、多くのアイヌ文化の歴史が語り継がれ、民族にとって由緒ある判官館に、協会の活動拠点となる、多機能型交流施設を建設すべく、令和2年度に地質調査及び実施設計を行ったところであります。

判官館は、新冠の歴史を見守り続けた山であり、多くの伝説や逸話が語り継がれる場所です。今や、多くの町民や来町者の憩いの場所でもあります。

私は、ここをアイヌ文化伝承の拠点と位置付け、このたびの交流施設の建設を契機とし、新冠百話に綴られた先人たちの伝説や逸話を絶やすことなく語り継いで行く活動や、タコツペ湿



多機能型交流施設の建設予定地 判官館

原などの自然環境の保全や、先人たちが残してくれた貴重な歴史に触れていただくための看板などを整備し、判官館一帯をアイヌ文化と歴史の象徴として、また、利用者の憩いの場所として、将来にわたって守り続けて行きたいと考えております。

今年度は、いよいよ建築本体工事に取り掛かるべく準備を進めるとともに、これに合わせた施設の活用方法などにつきましても、アイヌ協会との協議を進めながら、今後においても、5年毎に行われる事業の見直しを含め、更なる施策の推進を図ってまいります。

9 合葬墓の整備について
人口減少や少子高齢化のなか、墓の継承問題や維持管理な

どに対して不安や悩みを抱えている方が少なからずいらっしゃる。近年、こういった不安に対応すべく、他の人たちの遺骨と合葬と一緒に埋葬する合葬墓や共同墓などと呼ばれる共有のお墓が建立されております。

管理運営につきましては、公営のほか民営や寺院が運営するものがあり、さまざまな方法が取られていると伺っているところであり、お墓を守ってくださる親族や子孫がいない場合や、いわゆる墓じまいの場合などにも利用される方が多く、ニーズが高まっていると思われ、二ツが高まっていると思われ、まず、先事例などを参考にしながら、関係者と十分な協議を進めてまいりたいと考えております。

仮に町が実施する場合、宗教色を出さない配慮や、一度納骨すると、取り出すことが出来ないなどの制約がありますので、先ずは、先事例などを参考にしながら、関係者と十分な協議を進めてまいりたいと考えております。

10 各種検討委員会等の設置について
当町の課題はまだ多く、いずれも多額の財政出動を伴う

ものばかりであります。課題解決に向けましては、行・財政改革を念頭に置きながら、私の目指す、町民の皆さまとの対話を大切に、町民の皆さまに寄り添ったまちづくりが実現できるように、各種検討委員会を設けながら、幅広い見地からご意見がいただけるよう取り進めてまいりたいと考えております。

以上、二期目に向けた、私の所信と主な施策について述べさせていただきます。

コロナ禍という未曾有の事態を目の当たりにし、新たな希望がなかなか見出せない厳しい状況にはありますが、一日も早く日常を取り戻せるよう、職員一丸となって、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでまいりますとともに、新たな施策の推進に向け、「町民の声が生かされる町政」、「分かれやすく公平・公正な町政」、「町民と行政との協働のまちづくり」の3つを基本姿勢に据えながら「思いやりと笑顔にあふれた新冠」の実現に全力を傾注してまいります。

町民の皆さま、町議会議員の皆さま、そして関係団体、関係機関の皆さまのご支援を心からお願い申し上げます。